

平成30年度 夢の樹みどり 事業実績報告書

1 総括

29年4月に生活介護事業所として再スタートを切り2年が経過した。平成30年度は支援や活動の充実に取り組むこと、また、身体介護が必要な方の進路先としての役割を見据え、その環境整備を進めることが主な目標であった。年度当初にこの目標を職員全体で確認し、意見を出し合い、試行錯誤をしながら事業に取り組んできた。29年度に比べて支援、活動ともに少しずつレベルは向上していると感じているが、新たな活動の開発等は、年間を通して十分な職員数の確保が出来なかったこともあり、不十分であった。また、個別支援の充実についても、組織としての使命や目的とそのための手法が職員間で共有できていないことが多く、それにより個々の支援方針の徹底が不十分であったと感じている。一方、身体介護が必要な方を迎えるために、活動グループの分割や実地研修による支援技術の学習等を行った。グループ間の情報共有、協働や支援技術等に課題はあるが、次年度通所予定の小平特別支援学校卒業生の2名の受入れ準備は行うことが出来た。

2 事業概要

- | | | | |
|------------|--------------------|-----|------------|
| 1) 施設名 | 夢の樹みどり | | |
| 2) 事業種別 | 生活介護 | | |
| 3) 所在地 | 東京都小平市小川町1-744-1 | | |
| 4) 運営主体 | 社会福祉法人 未来 | | |
| 5) 利用定員 | 40名 | | |
| 6) 利用現員 | 36名 (平成31年3月31日現在) | | |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日 | | |
| 8) 事業開始年月日 | 平成29年4月1日 | | |
| 9) 職員 | 25名 (平成31年3月31日現在) | | |
| | 管理者 | 1名 | |
| | サービス管理責任者 | 1名 | (常勤換算1.0) |
| | 生活支援員 | 22名 | (常勤換算20.0) |
| | 看護師 | 2名 | (常勤換算1.0) |
| | 嘱託医 | 1名 | |

- 3 基本理念
- 一人ひとりの自己実現の支援
 - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
 - 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- ① 日中活動の保証
- ② 豊かな生活の支援
- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 安心できる将来への支援

5 実施事業 (活動内容)

1) 就労支援事業

- ① 資源回収
- ② 公園清掃
- ③ 緑化推進事業
- ④ ポスティング
- ⑤ 書類封筒作成
- ⑥ 紙袋底板入れ
- ⑦ 缶・ペットボトル潰し
- ⑧ その他軽作業

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション (月 1 回実施)
- ② 音楽教室 (月 2 回実施)
- ③ 旅行 (年 1 回実施)
- ④ 運動プログラム (週 3 日～5 日実施)
- ⑤ 夕方生活支援事業 (週 3 日実施)

3) 行事

- 4 月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5 月 障がい者運動会
- 6 月 昭和記念公園散策
- 7 月 夏祭り
- 8 月 川遊び
- 9 月 読売プリントメディア工場見学
- 10 月 羽村動物公園見学
- 11 月 旅行 (栃木県)
- 12 月 忘年会 (カラオケ)
- 1 月 新成人を祝う会
- 2 月 多摩六都科学館見学
- 3 月 防災訓練

6 日 課

開所・送迎	8 : 30 ~ 9 : 30
朝礼	9 : 00 ~ 9 : 30
活動	9 : 30 ~ 12 : 00
(作業・運動PG)	
昼休み	12 : 00 ~ 13 : 00
昼礼	13 : 00 ~ 13 : 10
活動	13 : 10 ~ 15 : 30
(作業・運動PG)	
実績記入・お茶	15 : 30 ~ 15 : 50
終礼	15 : 50 ~ 16 : 00
送迎・清掃	16 : 00 ~ 17 : 10
ミーティング	17 : 10 ~ 17 : 30

7 重点課題・目標に対する評価

1) 活動

(1) 丁寧な支援計画の作成とそれに基づく支援の実施

①利用者一人ひとりの状況把握を丁寧に行い、支援計画を丁寧に作成する

29年度はこれまでの支援計画を踏襲する形で作成し、作成時また見直し時に丁寧な検証を行わなかった。30年度は29年度の一人ひとりの支援状況、活動内容をまとめたものを作成し、これに基づき支援計画を作成する手法を取る。

②支援計画に基づいた支援の実施、評価、見直しの確実な実施

実施、評価、見直しのサイクルを行うにあたり、支援計画に沿った記録の徹底を行うほか、日々の支援状況や本人の状況の共有や意見交換を日々のミーティング等で丁寧に行う。

【成果と課題】

29年度の評価を基に30年度の計画を作成し、支援にあたった。支援経過の会議での共有や、丁寧な記録に取り組み、昨年度に比べて情報共有や記録には改善が見られた。しかし、上半期の振り返りにおいて、必ずしも計画に沿った支援が行われていないことや、各職員が自分の関わった場面のみの記載に留まり、利用者の全体像を記録に残せていないことが多くみられた。支援目標が実際の課題に即していないことも記録を取る過程で見えてきた。下半期はこの反省を基に職員参画の基、支援計

画の見直しを行うと共に、グループリーダー2名の記録関与を強化することで、記録の精度向上と職員間の情報共有の強化を図った。離職等による職員の交替も多く、組織全般での実施には不十分な点も多いが、状況は少しずつ改善されている。

(2) 利用者個々の生活の充実を目指した活動の充実、開発

利用者のニーズにきめ細かく対応すると共に、利用者の増加に対応するために現在の活動内容の充実を図るほか、新規作業開拓や利用者の嗜好、特性等に応じた活動の開発を行う。(必要に応じて個別の対応も実施する)

【成果と課題】

運動量の増加を希望した利用者1名のウォーキングを週3日から5日に増やしたほか、高齢の利用者2名に対しては、作業以外に音楽鑑賞の時間を設けた。体重の維持、減少を希望した利用者3名に対しては、みくま弁当のおかずのカロリーが高い日に限り、近隣のスーパーでカロリーの低い弁当を購入し提供した。また、利用者全員から聴取した活動への希望を基に、職員態勢上実施可能な下の2つの活動を下半期に試験的に行なった。(1)の創作活動は、試験的に2回実施したに留まったが、利用者に好評であったため、今後活動プログラム化に向けて検討を進めたい。(2)のウォーキングについては、事業所から離れた足湯まで歩いて移動する活動を試験的に実施したが、足湯の休館日と重なることが多く、1回の実施に留まった。これについても、活動実施曜日を変更するなどして定期的な実施に向け検討を進めたい。一方、昨年度下半期より開始した「みんなのおやつを買う」という目的でのウォーキングについては、隔週木曜日の午後に継続して実施出来ており、新たなプログラムとして定着させることができ、参加者の活動意欲にも向上がみられた。このウォーキングに参加した利用者8名の内、5名は週3日程度実施している運動プログラムに参加していない利用者であり、体を動かす機会が少なくなりがちで利用者が多い中、運動プログラムへの参加者が増えたことは意味があったと考える。その他利用者からは、映画や音楽鑑賞、水遊び、トランポリン等の希望が上がったが、職員態勢等を鑑みながら、次年度以降実施の可能性について検討を進めたい。

<試験的に実施した活動>

(1) 創作活動 ー利用者2名参加

拾ってきた落ち葉や枝を利用し、ちぎり絵を作成した。そして、その作成した作品をクリスマスシーズンに玄関付近に飾った。

(2) ウォーキング ー利用者4名参加

事業所から2.3km離れた足湯(徒歩での所要時間約30分)まで歩いて移動し、足湯に浸かった後、再び徒歩で事業所まで戻る。

(3) 生産活動の充実

生産活動への参加の機会を保障し、個々の利用者の状況に応じて「はたらく」ことによる社会参加を支援する。

【成果と課題】

全ての利用者が何らかの作業に参加する方針で活動を行い、一年を通して目標を達成することが出来た。作業においては体調面や希望を考慮しながら、無理なく意欲的に働くということを大切にしながら取り組んだ。全利用者36名の内、5名が昨年度まで経験していない作業に取り組んだほか、1名が新たに小平第二みどり作業所でのクッキー製造作業に参加した。この6名の内、5名が作業の選択肢の幅が広がったと共に意欲や技術の向上が見られた。また、利用者全体の作業量も昨年度と比べ増えてきている。紙袋の底板入れ作業では1か月あたりの作業量が前年度比で約2,900枚増え(21,100枚から24,000枚へ増加)、資源回収作業では1か月あたりの回収量が前年度比で約80キロ増えた。(570キロから650キロへ増加)

(4) 活動グループの分割

これまで一つのグループで活動してきたが、より個々のニーズに沿った丁寧な支援を行うと共に、地域の特別支援学校卒業生の受け入れなど、地域のニーズに幅広く対応するために、利用者の活動グループを2つに分割する。

【成果と課題】

7月からグループ分けのシミュレーションを実施し、9月下旬には2つのグループへの分割が完了した。1Fは主に身体介護や自発的行動への支援が必要な利用者20名とし、2Fは主にコミュニケーションや社会性への支援が必要な利用者16名とした。分割後、多少の混乱はみられたものの、3か月を過ぎる頃には、利用者、職員とも環境に慣れ、概ね順調なスタートを切ることができた。職員

の配置については、職員体制が整わず、日毎に流動的な配置が必要であった為、分割当初はグループリーダー以外固定化しなかったが、体制が整った2月より、1F10名、2F11名と配置を固定化した。活動グループの分割により、以下のような効果がみられた。

- (1) 朝礼、昼礼、終礼を一体的に実施していた時と比べ、各々の所要時間が平均5分短縮され、それにより利用者の待ち時間が減り、気持ちの安定化に繋がったとともに、効率的に作業を開始することができるようになった。
- (2) 利用者一人ひとりの活動スペースが広くなり、一人ひとりの距離感が近いことにより起きていた他害件数が減少した。

しかし、前述のように、職員配置を固定化したのが2月になったこともあり、活動グループ分割の支援上のメリット（一人ひとりの利用者の状況が把握しやすくなり、対応が丁寧に行えるなど）はまだ活かしきれていない。これについては、次年度以降の課題としたい。

また、身体介護が必要な方を迎えるための支援技術の向上に向けて、以下のような取り組みを実施した。

- (1) 小平特別支援学校高等部の実習生を3名受け入れほか、夢風船の利用者がPC作業を行うため月1回派遣されたことにより、身体介護が必要な利用者の活動プログラムについて具体的に検証することができた。
- (2) 支援技術や活動内容を学ぶため、施設長とグループリーダー2名が小平市社会福祉協議会たいよう福祉センターでの実地研修に参加した。また、この研修参加がきっかけで同センター内入浴室の貸し出しが利用できることとなり、31年度以降、身体介護が必要な利用者に対して、週1回入浴サービスを提供できることになった。
- (3) 夢風船職員の派遣により、身体介護が必要な方に対する具体的な支援方法や環境整備について学ぶことができた。

2) 人材育成

(1) 施設長

- ① ケース記録、報告書等の記録作成について、自己のスキルと指導力の向上。
- ② 行動観察等により職員の適性を把握する力の向上。
- ③ 日常の活動に関しての理解を通じ、職員とのコミュニケーションを強化する。

【成果と課題】

昨年度と比較してケース記録の確認は丁寧に行っているが、観念的な指導になりがちで、支援計画との関連性や適切な文言の使用、記録の不足など具体的な指摘、指導が不十分であった。職員の行動観察については丁寧に実施しているが、適性の把握には至っていないように感じる。グループリーダーの職員2名及び中核的な役割を担う職員1名については、密なコミュニケーションを取るよう心掛けたものの、日常の活動の中で使命や手法を継続的に伝達し、共有していこうとする姿勢は全体的に欠けていた。

(2) 生活支援員

(グループリーダー)

- ① 各職員の行動に関心をもち、事業方針に沿った指導や意見を行う。
- ② 活動全体を視野に入れて業務を行う。
- ③ 現場職員と施設長の橋渡しの役割を担うと共に、グループ間の情報共有を密にとる。
- ④ 利用者家族と連絡調整を通じて、信頼関係を構築する。
- ⑤ サービス等利用計画に関わり、利用者の生活全般に対する理解を深める。

【成果と課題】

グループリーダー候補3名を選抜し、実践の中で支援技術や知識の習得に向けた指導を行ったほか、昨年度より個別面談や認定調査等に同席する機会を増やし、利用者家族や関係機関との関係構築が進んだ。また、内2名に対しては、社会福祉の基礎構造改革、総合支援法、法人の歴史などについて学習会を実施した。その結果、3名とも利用者情報の管理、活動の把握など業務においてスキルの向上が見られ、内2名を計画通りリーダーとして配置し、残りの1名についても活動の中心的な役割を担っている。ただし、他の職員への関与や業務が所属グループの範囲内に留まるなど、事業所全体を視

野に入れた行動は不十分であった。また、活動中における情報伝達の精度や利用者への関わり方など改善すべき課題もまだ多い。

(全職員)

- ①利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルの向上。
- ②伝達や報告の手法、ケース記録・ミーティング記録の作成など情報共有に必要なスキルの向上。
- ③活動内容や支援方法に対して自己の意見を表明し、積極的に事業に関わる姿勢を持つ。

【成果と課題】

全般的に利用者の心情理解や支援技術など、基本的スキルの向上はみられているが、危機管理意識や利用者への関わり方などまだ課題は多い。情報共有に対する意識についても、昨年度と比べ向上は見られるものの、記録などの技術面は更なる向上が必要と考える。活動や支援方法への意見の表出は活発になってきているが、自分で考え行動する力が全体的に不足している。次年度以降、様々な面で業務レベルの底上げが必要と考える。

(3) 出納職員

- ①複式簿記に関する知識の更なる向上。
- ②社会福祉法人会計基準及び経理規程に関する知識の向上。
- ③各種計算書類の把握。
- ④経理業務遂行の効率化、正確性と速度の向上。

【成果と課題】

経理業務の正確性と速度が向上しており、日常の業務はほぼ支障なく行えるレベルとなっている。ただし、会計基準、経理規程や各種計算書類の把握は不十分で、事業所の財務状態の分析や、取引の際の適切な手続きを行うためには更なる知識の習得が必要である。これについては次年度に学習会を実施する予定である。

3) 経営管理

(1) 運営収入の安定確保

① 介護給付費

1日平均利用者28人(35人在籍、利用率80%)を目標とする(29年度1日平均利用者数25人)。常勤換算12.4名の生活支援員等を確保し、人員配置体制加算Ⅱ型を算定する(29年度Ⅲ型算定)。これにより、前年度比約650万円の増収を図る。

【成果と課題】

一日平均利用者数は27.98人となり、目標値である28.0人をやや下回る結果となったが、6月より人員配置体制加算Ⅰ型を算定し、年間の給付費収入は約8,950万円、昨年度比約2,680万円の増となり、目標を大きく上回った。(昨年度月平均給付費約520万円、今年度約745万円、昨年度比約225万円増額)

② 補助金

小平市日中活動系サービス推進費のメニュー選択式加算(①障害支援区分4~6の利用者が全体の30%以上 ②共同生活援助施設のバックアップ施設 ③3年に一度東京都福祉サービス第三者評価の受審)を算定し、前年度比約200万円の増収を図る。

【成果と課題】

小平市日中活動系サービス推進費補助においてメニュー選択式加算の対象となり、前年度比で216万円の増収(計10,417,000円)となった。一方、車両購入の為、東京馬主協会助成事業を申請したが選外となった。

③ 助成金

6月にキャリアアップ助成金(対象職員1名)を申請し、100万円の収入を得る。

【成果と課題】

30年4月にキャリアアップ助成金の制度が一部改正となり、助成額がこれまでの100万円から43万円減額の57万円となった。6月に申請を行い、計画通り57万円の収入を得た。

(2) 経費削減

- ①使用していない活動場所の電気消灯を徹底する。
- ②消耗品、備品等については整理整頓を徹底し、在庫管理を行うことで、無駄な消費をしない。

【成果と課題】

在庫管理担当者を1名配置し、消耗品や備品等の消費を日々確認しながら、計画的に購入することができた。電気消灯については、使用していない部屋の消し忘れなどが多く、全体的に不十分であった。

(3) 経営的視点の共有

毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

毎月の職員会議で資金収支の状況を報告した。経営状態については各職員とも大まかに把握しつつあるように感じるが、収支予測や事業との関連性の理解には至っていないと思われる。

(4) 利用者受入れ3か年計画

以下の計画に沿って、運営費、必要な送迎車両台数及び駐車場など、必要な試算や環境整備の計画立案を実施する。

<利用者受け入れ中長期計画>

平成31年度 … 利用者40名（一日平均34.0名）、職員数17名
平成32年度 … 利用者44名（一日平均38.0名）、職員数19名
平成33年度 … 利用者48名（一日平均42.0名）、職員数21名

【成果と課題】

31年度の利用者数は8名増の44名となり、送迎車両は2台増の9台必要となる。この為、近隣の月極駐車場2台分を確保するとともに、中古車両の購入と夢風船からの譲渡により、車両2台を確保した。また、定員超過による給付費の減算とならないよう3月1日付で定員を30名から40名に変更した。32年度以降の利用者受入れ計画については、31年度の見込みが大きく変更となったこともあり、まだ作成を行っていない。これについては、31年度の活動状況を確認しながら作成を進めていきたいと考えている。

8 その他の成果と課題

- 1) NPO法人春望と協力し、年間を通して、同じ地域（主に清瀬方面）の利用者の送迎を共同で行う取り組みを実施した。これにより、送迎時間の短縮と支援現場における職員数の確保が図られた。次年度以降も継続して実施する予定である。
- 2) 活動の透明化や健康面に関する看護師からの情報提供等を目的とし、「みどり便り」を7月、12月の年2回発行した。利用者、家族からの反響も多いことから、今後も継続して発行する予定である。

9 開所状況

- | | | |
|---------|-------------|-----------------|
| 1) 開所期間 | 自 平成30年4月1日 | 至 平成31年3月31日 |
| 2) 開所日数 | (1) 週開所日数 | 5日間 |
| | (2) 開所時間 | 午前9時～午後4時 |
| | (3) 年間延開所日数 | 244日間（前年度 244日） |
| | (4) 平均活動時間 | 7時間 |

10 利用状況

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1) 利用者延人員 | 6,827人（前年度 6,067人） |
| 2) 1日平均利用人員 | 28.0人（前年度 24.9人） |
| 3) 体験実習者延人員 | 66人（前年度 54人） |
| 4) 1日平均実習人員 | 0.3人（前年度 0.2人） |
| 5) 実習者実人員 | 17人（前年度 9人） |

1.1 利用者状況（平成31年3月31日現在）

1) 年齢

20歳未満	4名
20歳以上30歳未満	18名
30歳以上40歳未満	9名
40歳以上50歳未満	3名
50歳以上60歳未満	0名
60歳以上70歳未満	2名
70歳以上	0名

2) 障害の状況

愛の手帳2度	31名（内身障手帳所持2名）
愛の手帳3度	2名
愛の手帳4度	2名（内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名）
身体障害者手帳1級	4名（内愛の手帳所持3名）
精神保健手帳2級	1名（内愛の手帳所持1名）

障害支援区分

平均障害支援区分 4.8

3) 通所手段

送迎車利用	36名（内1名家族送迎、内1名徒歩等、内1名交通機関利用と併用）
徒歩等	1名（内1名送迎車利用と併用）
家族送迎	1名（内1名送迎車利用と併用）
交通機関利用	1名（内1名送迎車利用と併用）

4) 居住状況

管内居住 29名 管外居住 7名

5) 性別

男性 28名 女性 8名

1.2 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 5,945円（前年度 10,394円）
日給 : 368円（前年度 632円）

1.3 夕方生活支援実施状況

1) 実施日数 130日（前年度 114日）

2) 利用者（平成31年3月31日現在）

(1) 利用者数	29人（前年度 24名）
(2) 利用者延人数	645人（前年度 563名）

3) 支援者（平成31年3月31日現在）

(1) 職員	26人
(2) 職員延人数	429人

4) 内容	(1) ボウリング 13回
	(2) カラオケ 25回
	(3) 入浴 18回
	(4) プール 11回
	(5) 散歩 5回
	(6) 料理 11回

(7) パソコン	22回
(8) ゲームセンター	21回
(9) ドライブ	2回
(10) スイカ割り	1回
(11) 初詣	1回

1.4 生活支援PG実施状況

1) 実施日数	(1) PG実施日数	204日 (前年度 210日)
	(2) 週平均実施日数	4.5日 (前年度 4.0日)
2) 利用者 (平成31年3月31日現在)	(1) 利用者数	10人 (前年度 15名)
	(2) 利用者延人数	720人 (前年度 731名)
3) 支援者 (平成31年3月31日現在)	(1) 職員	15人
	(2) アルバイト	8人
	(3) 職員延人数	395人
	(4) アルバイト延人数	319人
4) 内容	(1) ウォーキング	518回
	(2) プール	202回

1.5 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。